

はあとほっとステーションはまだ

2005.12
Vol.33



島田病院

「平成17年を振り返って…今後の課題と対策」

平成17年もいろいろなことがありました。振り返りながら、課題を考え、これからの対策を述べたいと思います。

3月末で50年以上の歴史のある結核診療に幕を下ろす決断をしてから、トラブルなく診療の終了ができるよう、入院患者さんにご説明し、関係機関にもご理解をいただき、紹介転医の手続きや、退院後の療養のご案内を進めました。一方では、4月以降の「リハビリテーション機能の充実した整形外科専門施設」という特性を持った一般病床40床の病院としての再出発への準備も並行して行いました。スタッフの配置転換や業務見直しなど、大きな転換点をうまく乗り越えることができるように、慌ただしく、そして、忙しく平成17年が始まりました。

整形外科の診療に特化するのですから、専門性の高い技術を安定して提供できる体制を整えなければなりません。そこで、火曜・木曜に集中していた手術の受け入れを分散させ、他の曜日にも手術も可能となるよう取り組みを始めました。新しい技術として金医師は内視鏡を用いた腰椎の手術に取り組み、症例数が急速に増加しました。富原医師が中心で行っている膝前十字靭帯の手術については「いい病院全国ランキング」で29位にランクされ、掲載されました。

心配された混乱もなく、4月には13名の新卒のリハ専門職を迎え、新体制がスタートしました。新聞紙上では、連日のように医療事故の報道が続き、院長として、診療における安全の確保を最重要課題として掲げ、まずは、外来での薬剤処方での精度管理の徹底を指示しました。

8月からは、近畿大学医学部附属病院の研修医の先生を毎月お一人ずつ受け入れています。多忙な日常業務の傍ら、かれらの研修に協力し、指導したわけですが、これにより当院の特性が改めて浮き彫りとなったり、問題点に気付くといった二次的な効果もあることを体感しています。

整形外科の外来診療では、昨年と比較して新患の方の予約枠の利用は次第に上昇し、当院のシステムが少しずつ地域の皆様に浸透しつつあると喜んでおります。その反面、予約なしで受診された患者さまについては、時には診察まで2時間を超す待ち時間が発生することもあり、ご迷惑をおかけいたしております。担当する医師の絶対数不足がもっとも大きな解決すべき根本的な対策なのですが、整形外科医師の需要は高く供給がない上に、当院の診療方針に沿った診療実績のある医師の獲得はさらに困難な状況で、時間をかけて育成する方向を選択しています。今後、当院の専門性を求めて来院される患者さまのご便宜を図るため、受け入れ体制の改革を進めて参りたいと思っています。

内科診療は、糖尿病・高血圧といった生活習慣病の対策として、薬剤による治療の前に、または並行して、栄養面や運動の具体的な指導を積極的に取り入れ、健康増進にも寄与できるよう活動

を進めており、併設の疾病予防施設“ヴィゴラス”も次第に多くの方にご利用いただけるようになってきました。

一昨年夏、麻酔科の竹内医師が赴任してから開設しました“ペインクリニック”では、椎間板ヘルニアなどの整形外科での疼痛性疾患を主体として診療を行っています。手術を行わずに痛みを取る治療として「ブロック療法」を施行し、多くの実績を積み重ねています。痛みが取れば、積極的に運動療法を行い、同じ痛みが再発しないように予防的な治療も実践しており、こうした治療の体系は当院の診療の大きな柱の一つと考えています。

しかしながら、未だ不十分な対応の面も残っております。法的に必要なリハビリテーション前の医師による問診におきましても、プライバシー保護の観点からは十分な環境が整備されていません。待ち時間をできるだけ少なく、医師の業務としても効率的に、そして、環境面でも配慮したレイアウトやシステムを現在も模索しております。しばらくの間ご不便をおかけいたしますが、何とぞご高配賜りますよう、お願い申し上げます。

入院診療につきましては、あくまで手術の必要な整形外科疾患や外傷の方を優先する方針であるために、強い痛みで安静を目的として入院をご希望になる患者さまの要望にすべてお応えできない面も生じております。40床しかない病床をどのように有効に活用していくか、その時々のご利用状況下で、患者さまの病状と必要なケアの内容を突き合わせ、一例一例で検討していくと考えております。

この40床という病床規模につきましては、多少の動きがありました。地域医療計画により、松原・羽曳野・富田林・河内長野などが含まれる南河内圏域では、病床が過剰で増床ができないとされておりました。しかし、基準となる病床数の見直しにより、この圏域でわずかに3床の不足が生じたということで、当院も3床の増床の申請を致しております。8月の大阪府医療対策課におけるヒアリングを経て地域の保健医療協議会の病床新增設部会で話し合われることになっています。

当院は、整形外科・リハビリテーション科・内科・麻酔科と限られた診療科目ではありますが、疾病予防施設“ヴィゴラス”とともに、それぞれの専門性を磨き、地域の皆様の診療と健康づくりに関与して参りたいと思っています。平成18年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

島田病院 院長 島田 永和

<島田病院 理念>

人間愛と確かな技術に基づき
職員全員による患者さま本位の
ヘルスケアサービスを通し
地域の積極的な健康づくりに
関与する病院を目指します

<使 命>

良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

<職員憲章>

私たちは、その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを
心(Heart)と技術(Hands)で支援します

インフォメーション

第12回スポーツ選手・指導者交流会

～平成18年度 全国高等学校総合体育大会記念大会～

- 開催日時 平成18年2月25日(土) 14:00～18:00
- 開催場所 大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)
大阪市中央区大手前1丁目3番49号
206-6910-8500
アクセス:
1京阪天満橋駅・
地下鉄谷町線天満橋駅1番出口から西へ300m
2JR東西線大阪城北詰駅2号出入口 から西へ550m
- 主催 財団法人スポーツ安全協会大阪府支部
医療法人 永広会 島田病院

特別講演

『バスケット王国の勝利哲学

～基本は人づくり・組織作り～(仮題)』

講師 加藤 廣志 氏

(秋田県立能代工業高等学校バスケットボール部前監督)

●パネルディスカッション

・パネラー(予定)

加藤 廣志 氏

井村 雅代 氏 (アテネオリンピック シンクロナイズドスイミング 監督)

柳本 昌一 氏 (アテネオリンピック 女子バレーボール 監督)

・コーディネーター

島田 永和 (医療法人 永広会 理事長)

●定員 先着500名(予約制)

●参加費 無料

●お申し込み・お問い合わせ

第12回スポーツ選手・指導者交流会事務局(はびきのヴィゴラス内)

TEL/FAX:0729-53-1007

※島田病院のホームページ(<http://www.heartful-health.or.jp>)
からお申込みができます。(トップページのインフォメーションからアクセスしてください。)

高校バスケットボール界において、長年トップに君臨し続けている名門校であり、日本人初のNBAプレーヤーである田臥勇太選手を輩出した能代工業高等学校バスケットボール部の元監督である加藤廣志先生にご講演いただきます。貴重なお話を聞くことのできる数少ないチャンスです。バスケットボールだけに限らずあらゆるスポーツを行っている方、指導されている方、ぜひご参加ください。

診療部

●病診連携について(その1)

病診連携というシステムをご存知でしょうか?病院と診療所(開業医)がそれぞれの医療施設の長所を生かしつつ、患者さまの診療の連携を行うことで、患者さまにとってより有益な診療をおこなうシステムであります。最近、羽曳野藤井寺地区では積極的にこのシステムを進めようという動きが生じてきました。と申しますのも各医療施設にはそれぞれに診療の得意分野がございます。例えば一般的に、診療所は往診や訪問診療による在宅診療が可能でありますし、病院では十分な検査や入院診療が可能であります。また各医師におきましても専門とする診療分野がございます。元々内科をす

と研鑽してきた医師もいれば、整形外科をずっと研鑽してきた医師もいるわけですし、内科でもさらに細かく分かれまして、例えば消化器内科をずっと研鑽してきた医師もいれば、糖尿病内科をずっと研鑽してきた医師もこの羽曳野藤井寺地区にいるわけです。もし患者さまの通院が可能であれば、必要な時にそれぞれの分野の専門医師の受診をしていただければ、きっと患者さまによりよい診療の提供が可能となります。そのためにも患者さまに近隣の各医療施設の得意分野をよく知っていただくことが、我々医療スタッフのさらなる目標でもあります。

(内科医長 植田 秀樹)

ヴィゴラス教室

ぜひご参加
ください!

1月 テーマ「バランスボール」

～腰痛などの改善、正しい姿勢づくりを行いたい方必見の教室です～

日時:平成18年1月17日(火) 15:30～16:30

講師:トレーナー 河村 晃子

参加費:無料

定員:15名

※お申し込み・お問い合わせは島田病院地下1階
はびきのヴィゴラスまで

TEL/FAX 0729-53-1007
E-mail vigorous@heartful-health.or.jp

足底腱膜炎のリハビリテーション

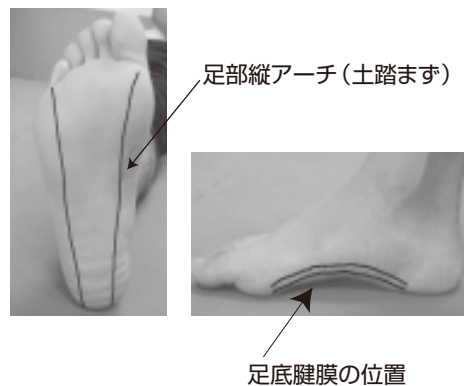
今回はランニングを主体とする陸上競技などに多い足底腱膜炎のリハビリテーションについてご紹介させていただきます。

足底腱膜炎は、一回の大きな外傷で起こる傷害ではなく、同じ動作の繰り返しにより起こるoveruse syndrom (使いすぎ症候群)であり、障害として認識されています。このような障害では、ただストレッチをして筋力増強するだけのリハビリテーションでは同じ痛みを繰り返してしまう恐れがあります。そこで、個人的要因(足の構造、柔軟性)とともに環境要因(シューズ、路面状態など)にも目を向けて、リハビリを進めていく必要性を認識していただけたら幸いです。

足底腱膜炎って何?

足底腱膜は踵骨より各足指へ向かい広がる強靱な腱膜であり、足部縦アーチ(土踏まず)の保持に重要な役割を担っています。正常であれば、歩行・ランニング中は、足部縦アーチがたわんだり、緊張することで地面と足部の衝撃を和らげるクッションとして働きます。

しかし、足全体の構造が硬く足底腱膜の柔軟性が乏しい足部では、ランニングなどで足底が地面に接地した時に、たわんだりする余裕がなく、足底腱膜に強い緊張が生じて、それを繰り返すことで腱膜に負担がかかり過ぎて炎症を起こします。



足底腱膜の柔軟性の左右差をチェックしてみましょう!



土踏まずに自分の親指をあてる



足指全体をそらす

<右足>



浮き出てきた腱を指で確認して左右差を比較する

<左足>



親指で腱を確認できた時に指のそりが少ない方の足が柔軟性が低下しています
この場合では左足です!!

足底腱膜のストレッチと筋力トレーニング



ゴルフボール転がし



足指をそらして足底を指で圧迫



タオルギャザー



ウォーキング・ランニングの際、足の裏は靴を介して地面と接する唯一の部分です。
負担のかかりやすい部位ですから、
上記のストレッチ・筋力トレーニングを参考に障害予防に取り組みましょう。

島田病院 結果発表 食事満足度調査

●平成17年8月実施●

お正月はどのようにお過ごしになりますか?おせちはお召し上がりになりますか?現在でも、手作りのおせちを召し上げる家庭はどれくらいあるのでしょうか。ずいぶん少なくなってきたように思います。とはいえ、正月におせちを食べることは家族や親せきとともにお重を囲んで結束を固め、代々の伝統の味を後世に継承していくための大切な儀式として残していきたいものですね。

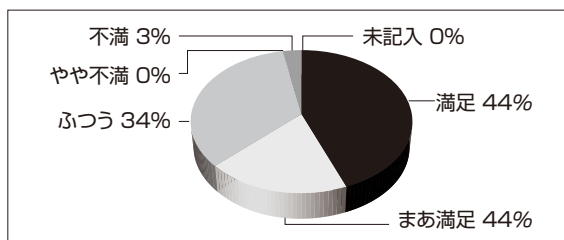
当院では、来年も正月三が日はお雑煮をはじめ、おせち料理を楽しんでいただく予定にしております。

来年も患者さまにご満足していただけるよう、スタッフ一同がんばって参ります。

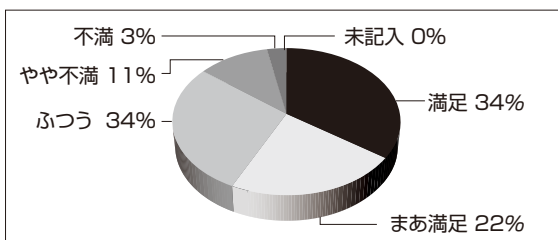


実施日:8月22日(月)~27日(土)
対象者:入院患者53名(治療食をお召し上がりの方を含む)
回収率:60.4%(53名中32名回収)

1 入院中のお食事には満足されていますか?

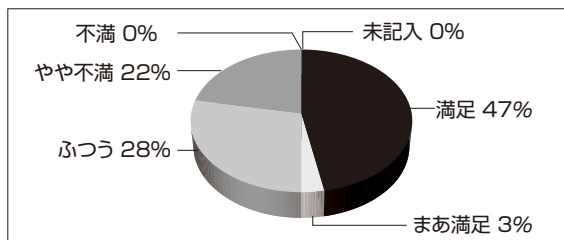


2 お食事の味付けはいかがですか?



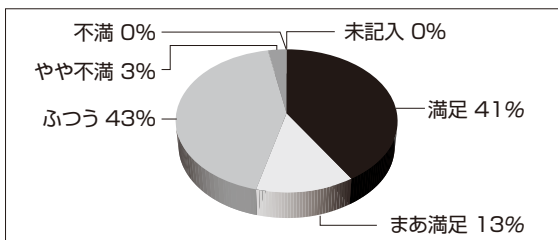
※「やや不満」と答えられた理由は何ですか?
味が薄い...5名

3 量はいかがですか?



※「やや不満」と答えられた理由は何ですか?
量が多い...4名 量が少ない...3名

4 盛り付けはいかがですか?



5 その他のご感想

- ・味付けにばらつきがあります。普通食はもっとおいしく味付けしてほしいです。
- ・満足しています。おいしいです。 ・もう少し味があればうれしい。



調査にご協力いただきましてありがとうございました。
味付けは「薄味だけど美味しいね」といわれるような料理を目指して工夫していきたいと思っております! どうぞ率直なご意見・ご要望などお寄せください。

島田病院では、このニュース・レターが病院と患者様を結びコミュニケーションツールとなるよう願っています。ぜひ、みなさまからのご意見、ご感想を館内各所に設置している「きくぞう君(ご意見箱)」までお寄せください。